

# エシカル消費の視点を入れた小学校家庭科の指導

— 商品の表示に気を付けた買い物 —

田村 真理

## Teaching method of home economics classes in Elementary School adopting ethical consumption

— Shopping by considering the indication of products —

TAMURA Mari

### 要約

SDGsが2030年までに達成すべき開発目標を定め、現在、国や行政、企業等の取り組みが進んでいる。また、2012年に成立した「消費者教育推進法」により、2018年告知の高等学校学習指導要領家庭編<sup>1)</sup>の「C持続可能な消費生活・環境」には「Think globally Act locally（地球規模で考え、地域で行動する）」の考え方が示されている。本研究では、小学校5年生の内容「C 消費生活・環境」の「生活を支えるお金と物」の学習において、人・社会・環境に配慮したエシカル消費を学び、意識や行動が日常生活の実践につながるように試みた。その指導において、教材としてバナナを用い、フォトランゲージの手法から児童労働に注目し、学習課題に迫るようにした。その結果、児童はエシカル消費について理解を深めるとともに、意識の変容や具体的な行動を日常生活の中から見いだせるようになった。さらに、周りの人や地域・社会に広めていこうとする行動の変容もみられた。

キーワード：小学校家庭科、持続可能な社会、エシカル消費、フォトランゲージ

### 1. はじめに

ものが豊かになった現代では、消費者がどのような消費行動をとるかが、持続可能な社会の構築につながっている。消費者教育は、われわれ消費者が社会の担い手として自主的に活動し、よりよい社会を創りあげていくために必要な資質・能力を育むことをねらいとしている。2012年（平成24年）、消費者教育推進法が施行され、学校教育においては、幼児、児童生徒の発達段階に応じて授業などを通して、体系的・総合的に消費者としての能力を身に付けることが義務づけられ

た。また、2017年（平成29年）告示された学習指導要領<sup>2)</sup>の前文には「これからの学校には、一人一人の児童が、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と、持続可能な社会の担い手を育てる意義がもられている。

これまで家庭科において、マークや表示をはじめとする生活情報を教材とした学習は、数多く実践が積み重ねられてきた（渡瀬 2008）（山科 2017）。ここ

では、エシカル消費の人・社会・地域・環境の視点から商品の選び方を考えていく。エシカル消費とは、理論的消費である。「消費者基本計画」の中では、「地域の活性化や雇用なども含む、人や社会、環境に配慮した消費行動」としている。消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行ったりすることを目指している。配慮の対象となる具体例は、人・社会・環境・地域をあげている。課題の解決には、消費者一人一人の行動が不可欠かつ有効としている。また、「安さ」や「便利さ」にとかく目が行きがちだが、隠れた社会的費用にも意識を向ける必要があるとしている。

小学校家庭科の「D 消費生活・環境」では、課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境について考え、よりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことをねらいとしている。身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできるようにするため、その選び方で着目する目安として表示やラベルに注目させたい。さらに、課題解決に向けて、自分にできる取り組みについて考え、決定し、行動できる消費者につなげていくことをねらいとした。

## 2 研究方法

### (1) 研究対象者

千葉市立小学校5年生3クラスの児童で、リモート授業を含む83名である。2022年9月から10月が実施期間である。

### (2) 授業の設定とねらい

小学校で学ぶ内容「C 消費生活・環境」では、児童が使う身近な物について取り上げ、値段や分量、品質などを選ぶ際の観点について学ばせていく。そこで取り上げられる物が、学習ノートや筆箱などの文具類となる。ところが多くの児童は、文房具類については、家族と共に選んだり、購入する機会も多くなかったりする傾向がある。よって、学校で文房具等の選び方を学んでも実際の生活に活かす機会も少ない。

本研究では、商品としてバナナを取り上げた。その理由は、

- ① 本校の給食の果物の提供率が一番高い物は柑橘類であるが、バナナはほぼ同数の提供頻度である。また、喫食率については、柑橘類より高く94%である。
- ② 消費者としての経験が少ない児童でも「バナナ」は身近な食品であることから、学びを実際の生活に活かす機会も多い。
- ③ 「バナナ」の生産過程では諸課題が山積していること等から、学習を通して商品を選択する際、価値観が広がる学習教材である。
- ④ SDGsの目標達成のためには、国や政府、企業が「エシカル消費」を推進しており、「エシカル消費」を学ぶ際に効果的である。

以上の点から、適切な教材選択が消費者教育を行う際に重要であるので、本研究では、「バナナ」を取り上げて、「エシカル消費」について学べるようにした。

また、授業の導入でフォトランゲージの手法を取り上げる。フォトランゲージとは、写真やイラストから、そこに込められた意味や思いなどについて様々な角度から推察する学習の方法で、アクティブラーニングの手法のひとつである。

家庭科では、生活の課題を見いだすことから学習がスタートする。その課題解決を通して生活に活かす力を身につけることから課題は重要となる。課題づくりでは、フォトランゲージを活用し、気づいたことや自分の既存の知識と関連づけて課題を見いだしていく。ここでは、コーヒー農園で生豆を摘んでいる児童労働を示した。大人だけの労働では生計が成り立たず、本来、学校に行くべき子供が労働していること。ユニセフ<sup>3)</sup>の統計資料では、10人に1人の割合で子供が学校に行かずに児童労働をおこなっているという報告がある。さらに、日本の自分たちの身の回りには児童労働の子供がいらないということは、一部の国や地域に偏っていること等の課題を気づかせたい。

以上のことを踏まえ、本単元の学習目標を「身近な物の選び方、買い方を理解し、目的に合った品質のよい物を選んで購入するために必要な情報

の収集・整理をラベルを通して適切にできる（知識・理解）」「身近な消費生活について課題を解決するために、持続可能な社会の構築等の視点から、物の選び方、買い方を考え、工夫することができる（思考・判断・表現）」とした。

### 3 授業実践の内容

#### （１）指導計画

前時に「わたしたちの生活とお金」について学習し、家庭生活はお金に支えられていること、収入と支出のバランスが大切であることを学んだ。本授業実践までの課外に、自分の家のお金の使い方や工夫していることを保護者に取材した。取材

表 1 指導計画の概要

時	学習項目	指導内容
第 1 時	バナナを選ぼう	<p>学習目標「手順にそってバナナを選べる」</p> <p>① 目的→計画→情報収集→情報共有→整理・決定→買う→食べる→振り返るの手順にそって考える。</p> <p>② 自分（人・環境・社会）にとってよりよいものを選べる。</p> <p>※情報共有については、タブレットの画面共有を活用し、自分の考えを発信し、他の児童と情報共有をする。他の児童の新たな情報を得て、その情報を吟味し、新たな考えを構築する（資料 2）。</p> <p>※学習前・学習後、バナナを選ぶ観点の変化や視野の広がりに気づく。</p>
第 2 時	フェアトレードって何？	<p>学習目標「フェアトレードから『SDGs 12 つくる責任つかう責任』、『エシカル消費』について理解する」</p> <p>① 児童労働の写真からフェアトレードについて理解し、考える。</p> <p>② なぜ、SDGs やエシカル消費について考えなければいけないかわかる。</p> <p>③ 商品を選ぶとき、表示から情報を得られることに気がつく。</p>
課外	人・社会・環境に配慮した商品を探そう	<p>① 家や地域の店に行き、人・社会・環境に配慮したラベル・表示をさがす。</p> <p>② 家の人に感想を取材し、まとめる。</p>
第 3 時	みんなではじめるエシカル消費～目指そう 行動できる消費者へ～	<p>① エシカル消費に向けて何ができるか考える。</p> <p>〈レベル 1〉自分ができること</p> <p>〈レベル 2〉皆に広めたいこと</p> <p>〈レベル 3〉地域・社会に広めたいこと</p> <p>※「できるところ」をタブレットに提出させた。閲覧可能なので下位児童のヒントともなった。</p>

から家族がお金を大切に使うために、情報を集めたり、よく考えたりして、計画的にお金を使っていることを知った。児童は、お金について関心意欲を高めるとともに、お金の大切さを実感した。

本研究では、「生活を支えるお金と物」の全 6 時間単元の中の 3 時間の授業を行った。指導計画の概要は表 1 のとおりである。

#### （２）授業実践における結果

児童の記述したワークシートおよびタブレットの記述からの結果は、以下のとおりである。





##### ①第 1 時「バナナを選ぼう」

授業の第 1 時では、買い物の仕方を「目的→計画→情報収集→情報共有→整理・決定→買う→食べる→振り返る」の順に従い、バナナをもとに考えた。

資料 1 <第 1 時：ワークシートの一部>

「ダックのお家では、朝ごはんにはバナナが定番。明日のバナナを買いに Let's Go!

1 予算は 300 円。あなただったら A～D のどのバナナを選ぶ？

A	B	C	D
八百屋(やおや)	コンビニ	スーパーマーケット	
			
(フィリピン産)	(フィリピン産)	特売品 (フィリピン産)	レインフォレストバナナ (メキシコ産)
3本 150円	3本 200円	3本 100円	3本 300円

<第 1 時で扱うラベル（レインフォレスト認証マーク）>



4)

バナナは、八百屋でピニール包装なしの物、児童にとって近くにあるコンビニの物、スーパーで特売品の値段が一番安い物、スーパーでレインフォレスト認証マークありの値段が一番高い物の 4 点とした（資料 1）。

バナナの選び方を手順にそって進めていく。最初に「目的」を理解した上で、まずは（資料 1）の情報を提示しただけの状態ですべて 4 点のバナナから 1 点を選んだ。その後、「情報収集」で、それぞれのメリットやデメリットを考えたり調べたりした（表 2）。「情報共有」では、一押しの考えや情報をタブレット上にあげ、クラス全体で情報共有

を図った（資料2）。児童は、タブレット上に情報を上げるので、瞬時にクラス全体の書き込みが完了し、自分と同じ情報や新たな情報が明示され、短時間で多くの情報を有共できることになる。情報共有を行ったことにより、自分の考えにより自信がもてたり、新たな視点ができ、視野が広がったりしたことが発表やワークシートからわかった。

資料 2 <第 1 時：タブレットの画面で情報共有>

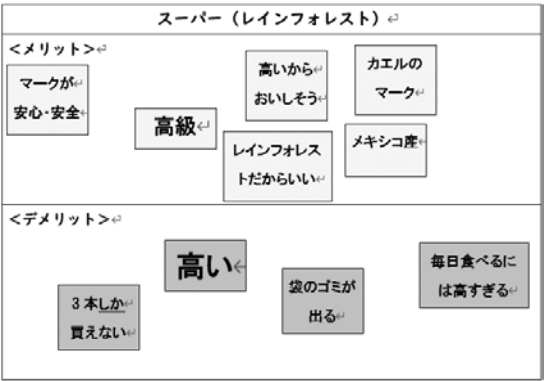
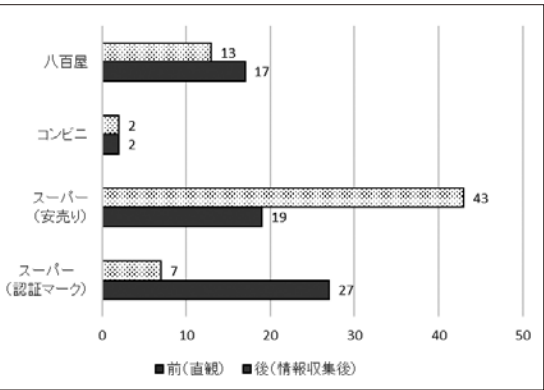


図 1 授業内でのバナナを選ぶ基準の変化  
(n=69)



前時にお金の大切さについて学んだこともあり、どのバナナを選ぶかの問いに授業の始めには、特売品の一番安いバナナを選ぶ児童が43人（63％）で一番多かった。選んだ理由は、「一番安い」「予算で3袋買える」であった。次いで八百屋が13人、スーパーのレインフォレスト認証マークが7人であった。

「情報収集」「情報共有」「整理・決定」の後に、どのバナナを選ぶか尋ねたところ、選ぶ場所や基準が変化した児童は（図1）（表3）のとおりになった。

メリット・デメリットの「情報収集」「情報共有」後に選ぶ場所・基準の変化は、スーパーの特売や

表 2 <店舗・ラベルのメリット・デメリット>

八百屋			
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話で情報が得られる</li> <li>・包装のビニール袋がない</li> <li>・まけてもらえるかもしれない</li> <li>・新鮮</li> </ul>	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の近くに八百屋がない</li> <li>・買わないときに断りづらい</li> </ul>
コンビニ			
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の近くにコンビニがあるから便利</li> <li>・24時間買える</li> </ul>	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種類がないから選べない</li> <li>・八百屋よりも高い</li> <li>・袋のゴミが増える</li> </ul>
スーパー（特売）			
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安い</li> <li>・予算で3袋買える</li> </ul>	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐ腐りそう</li> <li>・次は買えないかもしれない</li> <li>・おいしくないかも</li> <li>・袋のゴミが増える</li> </ul>
スーパー（レインフォレスト）			
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メキシコ産</li> <li>・カエルのラベル</li> <li>・高い＝おいしい</li> <li>・高級そう</li> </ul>	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い</li> <li>・3本しか買えない</li> <li>・袋のゴミが増える</li> </ul>

表 3 授業内でのバナナを選ぶ場所・基準の変化  
(n=66)

前（直観）		後（情報収集後）	
八百屋	13	→八百屋	4
		→コンビニ	1
		→スーパー（特売）	4
		→スーパー（認証マーク）	4
コンビニ	2	→八百屋	0
		→コンビニ	0
		→スーパー（特売）	1
		→スーパー（認証マーク）	1
スーパー（特売）	43	→八百屋	12
		→コンビニ	0
		→スーパー（特売）	11
		→スーパー（認証マーク）	20
スーパー（認証マーク）	7	→八百屋	1
		→コンビニ	1
		→スーパー（特売）	3
		→スーパー（認証マーク）	2
未記入	3	未記入	1

八百屋、コンビニから認証マーク付きに変容した児童が一番多かった。理由は「農薬を使わない（有機栽培）で育てられているから安心」、「環境（体）にやさしいから」、「マークがついているから安心」となった。認証マークのラベルの意味を理解した上で、選んだことがわかる。一方、最初、認証マークを選んでいった児童は、他の特売などに変っており、

理由としては「安い」ことをあげている。はじめに認証マーク付の物を選んではいしたが、価値基準がしっかりとできていなかったのではないかとと思われる。また、「八百屋」に変わった児童は、「会話をいろいろな情報をもらえる」、「ビニール袋がなくゴミがでない」であった。

以上のことから、児童ははじめ、お金の大切さから一番安い商品を選ぶことが多かったが、情報収集をし、それぞれのメリット・デメリットを整理し共有したことで、バナナを選ぶ価値基準ができ理由を明確にして判断・決定し、商品を選ぶことができた。

## ②第2時「フェアトレードって何？」

第2時では、児童労働の写真をもとにフェアトレードについて考え、フェアトレード認証ラベルを扱う。

＜第2時で扱うラベル（国際フェアトレード認証ラベル）＞



## 【写真1】「何をしているのでしょうか？」 6)



学習前の事前アンケート（表4）で「フェアトレード」のラベルを知らない児童は58人（74%）、見たことはあるが12人（15%）、知っている5人（6%）、意味も知っている3人（4%）であった。ほとんどの児童が、このラベルに対しての認知と興味関心が低いことがわかった。

授業の導入では写真を提示し、「何をしているのか」を考えた。児童は写真から「子供が仕事を

している」「木の実（コーヒー豆）を採っている」ことを推察した。さらに、子供が働く児童労働は何が問題なのか、コーヒーの生産・流通過程で何が問題なのかを考えたり、調べたりした。調べる中で「フェアトレード」を知り、フェアトレードとは公平な貿易であり、発展途上国でつくられた農作物や製品を適正な価格で継続的に取引して、生産者の生活を支えるしくみであることを理解した。不公平であると就学すべき子供までが労働し生活を支える一端を担っていることなどが問題であることがわかった。公平な取引をされた商品には認証ラベルが示されていることを理解した。また、児童労働に関わる農産物や仕事はコーヒーだけではなく、綿花やカカオ、リサイクルごみの回収など多種【写真1】におよんでいることを知り、フェアトレードの重要性を理解した。

授業後のワークシートの記述は、以下のとおりである。

- ・ラベルは最初、知らなかったけど、授業でいろいろな意味があることを学びました。
- ・世界には学校に行きたくても行けず、働いている子供がいることが分かった。
- ・フェアトレードのラベルがあることがわかった。
- ・他のラベルも知りたい。
- ・今まで値段で物を選んでいましたが、値段以外の選び方もあることが分かった。
- ・場所、値段、貧困など、いろいろな課題を抱えていると思った。遠足でおやつを買うときには、ラベルを見ようと思った。
- ・家でも有機野菜や無添加食品を食べています。どうしてその食品を選んでいるか、理由がわかりました。続けていきたいです。

児童は、今まで値段を基準に商品を選んでいましたが値段以外の基準ができたり、フェアトレードラベルや他のラベルについて興味関心が高まったりしたことがわかる。また、自分自身のこれからの消費行動でどんなことができるかを考え、変えていこうとしている内容や家庭でラベル付きの物を購入しているが、なぜその商品を選択しているのか、理由を理解し、これからも続けていこうとす

る記述がみられた。

### ③課外「人・社会・環境に配慮した商品を探そう」

次時の第3時までの期間（秋休みを含む）を利用し、自宅にある商品や地域の店舗に行き、人・社会・環境に配慮したラベル・表示の商品をさがすことを課題とした。

調査場所は、自宅44人（66%）、スーパーマーケット21人（31%）、インターネット2人（3%）であった。また、さがしてきたラベル・表示を「分別のためのラベル（図3）」と「生産・流通過程を知る手掛かりになるラベル（図4）」に分けて整理していった。分別のためのラベルはリサイクルマークやエコマーク、生産・流通過程を知る手掛かりになるラベルは有機JAS、バイオマスマーク、レインフォレスト認証マーク等である。

調査後、保護者に調査した商品やラベル・マークについての感想を取材し、まとめていった。

#### 資料 3 <課外：児童のタブレット内のワークシート 「人・社会・環境に配慮した商品を探そう」> 【1 ページ】

「人・社会・環境に配慮した商品を探そう」

5年 組 名前

① 調査日 令和4年 9 月 30 日 ( 金 )

② 調査場所 家

#### 【2・3 ページ】

⑦ 有機豆乳無調整	⑧ Organic Raw
ラベル・表示	ラベル・表示
	
買った理由 マークが記載されているから	買った理由 マークが記載されているから

#### 【4 ページ】

「家族への取材と調査のまとめ」 1 取材の目的を言う 2 メモをとる 3 礼儀正しく 4 お礼を言う

④ 家族に調査した商品やラベル・表示を見た感想を聞いてみましょう。

なるべく体や環境のために、オーガニックを積極的に選んでいきたいと思う。

⑤ 調査、取材を終えたまとめを書きましょう。

オーガニック製品は探してみると意外に身近にたくさんあった。そして⑦⑧は少なく、⑨のほうが多かった。

図 2 ラベル・表示の種類（複数調査）（n=70）

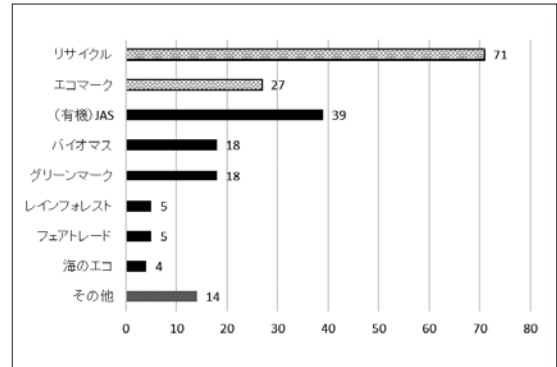


図 3 <児童が調べてきた分別のためのマークの例>



7) 8) 9)

図 4 <児童が調べてきた生産・流通過程を知る手掛かりになるラベルの例>



10) 11) 12) 13) 14) 15) 16)

保護者・児童の気づきには、ラベルに注意をするようになったこと、意識して商品を選ぶようになったことなど、意識や消費行動の変化につながった。また、「分別のためのマーク（図3）」を多くさがせた児童は、身近にラベルやマークがたくさんあるという記述が多かった。逆に、店舗で「生産・流通過程を知る手掛かりになるラベル」をさがしていた児童は、ラベルが少ないという記

述となった。また、保護者が普段から環境に配慮した商品を選んでいる家庭は、以前に比べて環境に配慮した商品が増えたとか、日本より海外のラベルのほうが多いなどの記述となった。その内容を以下に示す。

<div> <div>&lt;保護者&gt;</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも気にせず使っているものにラベルがついていることを知りました。これからは、買い物のときにラベルがついていることを気にしながら品物を選ぼうと思いました。</li> <li>・いろいろな企業が自然に配慮した商品を作っていると思った。</li> <li>・このような商品は環境や途上国の労働に配慮されていて良い商品だけど、あまり種類が多くないと思った。</li> <li>・環境に優しい物を次から買いたいと思いました。</li> <li>・昔に比べ環境に優しい商品が増えていると感じました。その一つがペットボトルの包装の削減です。</li> <li>・体や環境のために、オーガニックを積極的に選んでいきたい。</li> <li>・環境に配慮したマークが少ないと思いました。</li> </ul> </div>	
<div> <div>&lt;児童&gt;</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからはもっと多くのラベルについて知り、自分にもできる取り組みをしていきたいです。</li> <li>・地球のため、私たちの未来のために、今後も環境を意識した商品に注目して選んでいこうと思った。</li> <li>・人・社会・環境に配慮した商品は身近な物にもたくさんある。</li> <li>・環境問題に取り組むラベル表示がいっぱいあって驚いた。</li> <li>・オーガニック商品は探してみると意外に身近にたくさんあった。そして日本の有機マークよりUSAの有機マークのほうが多かった。</li> </ul> </div>	

④第3時「みんなではじめるエシカル消費  
～目指そう 行動できる消費者へ～」

第3時では、今までの学習や課外の学習も踏まえて、エシカル消費に向けて何ができるか考えた。まず、何ができるか考え、タブレットに挙げ、情報共有をした。できることのレベルを1から3に整理し、より意識の向上を図れるように促した。

<レベル1> 自分ができること
<レベル2> 皆に広めたいこと
<レベル3> 地域・社会に広めたいこと

エシカル消費の取り組みを以下に示す。

人	<レベル1>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レインフォレストなどのラベルを見て選ぶ。</li> <li>・無駄に買わない。</li> </ul>
	<レベル2>
社会・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの人にエシカル消費を広める。</li> </ul>
	<レベル3>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは自分がエシカル消費をして、それから身近な人に広めていく。</li> </ul>
	<レベル1>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賞味期限を見て買ったものをきちんと食べきるようにする。</li> <li>・賞味期限間近の割引の物を買ひ、食品ロスを減らす。</li> <li>・エコバックを使う。</li> <li>・マイボトルや詰め替えできるものを選ぶ。</li> <li>・マークを見て選ぶ。</li> <li>・ゴミを道や海に捨てない。</li> <li>・ゴミを拾う。</li> <li>・分別してリサイクルできるものはする。</li> <li>・ストローなどの使用を減らす。</li> <li>・包装が簡単な物（ゴミ）を選ぶ。</li> <li>・ペットボトルや紙をリサイクルする。</li> <li>・食べ残しをしない。</li> <li>・最後まで物を使う。</li> <li>・必要な量を買う。</li> <li>・地産地消をする。</li> <li>・使い終わったことまで考えて、物を選ぶ。</li> </ul>
	<レベル2>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの人にエシカル消費を広める。</li> <li>・ゴミを捨てている人を見かけたら注意する。</li> </ul>
	<レベル3>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売り上げの一部が寄付されるものを選ぶ。</li> <li>・プラゴミになるので、学校給食のストローを止めてほしい。</li> <li>・有機の商品を増やして、生産者が幸せになるようにする。</li> </ul>

自由記述には、以下の記述がみられた。

- ・エシカル消費は、人・社会・環境に配慮した消費行動だとわかりました。
- ・無農薬野菜を買いたい。
- ・レインフォレストのバナナを買いたい。
- ・給食のプラスチックのストローのことを（行政に）言ってみたい。
- ・未来に向けて、できることを取り組んでいきたい。
- ・自分が運営委員（児童会）という立場でもあるので、学校内でもエシカル消費を広めていきたい。

具体的な行動や取り組みを示すものが多くみられた。以上のことから児童は、エシカル消費が大切であることがわかり、これから買い物に行った際は、ラベルやマーク、産地を確認し、未来につ

ながる消費行動をしたいと考える傾向が確認できた。自分たちが地球を救うためにできることはたくさんあることを実感し、行動したいと考えている。エシカル消費について、自分にできること、行動の大切さを学べ、行動につながり一歩となったようである。

## 4 結 果

### (1) 事前・事後アンケート結果

学習の効果を確認するために、授業前後に「お金の使い方と意識、商品を選ぶ基準とラベル」についてアンケートを行った。アンケートの結果は、以下に示す(表4)。

表4 事前・事後アンケート (n=78) (人)

質問および回答内容	事前	事後
問1 お金があったらどんなことに使いたい		
貯める	30	24
食事・食べ物	11	6
趣味(ゲーム・漫画)	11	16
家族・人のために使う プレゼント等	9	5
文房具		4
必要な物を買う		12
募金・寄付		10
その他・無回答	17	1
問2 ほしいものがあるとき、お金をどう手に入れるか		
貯めてから	23	34
手伝う	24	26
ねだる	17	9
成績アップさせもらう	6	3
その他		2
問3 お金を使うとき、気を付けていること (複数回答)		
予算	28	17
無駄使いしない	34	37
本当に必要か考える	17	17
ラベル・品質を見る		6
その他	1	5
問4 バナナを選ぶとき、気を付けること (複数回答)		
予算	8	11
値段	43	42
ラベル	2	39
産地	27	28
おいしさ	31	28
その他	5	7
無回答	12	2

質問および回答内容	事前	事後
問5 マークを知っているか 意味も知っている(4点) 知っている(3点) 見たことがある(2点) 知らない(1点)の平均値		
エコマーク	2.3	3.4 (+1.1)
SGマーク	1.6	2.3 (+0.7)
レインフォレスト	1.3	3.4 (+2.1)
グリーンマーク	2.4	3.2 (+0.8)
フェアトレード	1.4	3.5 (+2.1)
JISマーク	1.9	2.5 (+0.6)
JASマーク	2.1	2.9 (+0.8)
有機JASマーク	1.8	3.3 (+1.5)
海のエコラベル	1.9	3.0 (+1.1)
衣類の取り扱い表示 手洗いマーク	1.7	2.0 (+0.3)

### (2) 授業後の考察

問1の「お金があったらどんなことに使いたい」という「お金の使い道」については、事前では「貯める」「食事・食べ物」「趣味」など88%が自分のために使いたいと答えていた。また、「その他・無回答」は、「考えたことがない」「わからない」など気付けない児童もいた。事後では「必要なものを買う」「募金・寄付」が新たにあがった。児童は、エシカル消費に向けて取り組む必要性は感じているが、商品を買う機会がまだ少ないことや授業や課外の調査から身近に「生産・流通过程を知る手掛かりになるラベル」が少ないことから、手軽にできる募金や寄付をしたいという考えに至ったと思われる。また、事前でみられた「考えたことがない」「わからない」の回答はなくなり、学習を通して意識の高まりが確認できた。

問2の「ほしいものがあるとき、お金をどう手に入れるか」は、事前では「貯めてから」「手伝う」がほぼ同数で高く、次いで「ねだる」であった。半数以上の児童が、毎月定額をお小遣いとしてもらっているが、ほしいものがあるときは「ねだる」が1/3弱おり、お金の大切さや管理がきちんとできているとは言い難い。授業後の事後では「ねだる」が8名減り、「貯めてから」が11名に増えた。お金の大切さに気付き、自分でよく考えて計画的に使いたいと答えている児童も増えた。

問3の「お金を使うとき、気を付けていること」は、「無駄遣いをしない」「予算」「本当に必要か考える」の順で、堅実に買い物をしていることが

わかる。事後でも「無駄遣いをしない」が多いが新たに「ラベル・品質を見る」が挙げられた。その他では、「包装がゴミになる物は選ばない」「最後まで使えるか考える」「記録する」など、吟味して選んだり、環境に配慮した新たな視点が加わったりしたことがわかる。

問4の「バナナを選ぶとき、気を付けること」では、学習前の事前では「値段」「おいしさ」「産地」の順で選ぶとなった。事後でも「値段」が一番多かったが、次に「ラベル」になり「産地」「おいしさ」の順で続く。ものを購入する際に、選ぶ基準のひとつとしてラベルに注目していることがわかる。また、「その他」に「安全性」「体にいい」「ゴミの出ない包装のものを選ぶ」などがあがった。「無回答」「わからない」は、事前では12名だったが、事後は2名となり、値段やラベルなどの選ぶ基準が備わってきたことがわかる。

問5の「マークを知っているか」の事前では、「グリーンマーク」「エコマーク」の順で高く、「レインフォレスト」「フェアトレード」「有機JASマーク」は低い。「分別のためのマーク」についての認知は高いが、「生産・流通過程を知る手掛かりになるラベル」の認知が低いことがわかる。しかし、授業後、授業で扱った「レインフォレスト」「フェアトレード」は、バナナや児童労働と結び付けて扱ったので、意味まで理解し学習が深まり、他のラベルに比べ認知・理解度が高まった。また、全てのマークの認知度が上がっている。さらに、今回は食品のマークを中心に学習を進めたが、全く扱わなかった「SGマーク」「衣類の取り扱い表示 手洗いマーク」についても認知度が高くなっていた。児童は授業で扱った食品だけでなく、家庭の中の生活全般のマークにまで関心が高まったことがわかる。

## 5 考 察

消費者教育の推進に関する法律「消費者教育推進法」の第2条第2項では、消費者市民社会は、消費者が個々の消費者の特性および消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社

会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会としている。私たち消費者は、豊かな生活を送っていききたいと思いたい様々な物やサービスを購入し、どのように暮らしていくかのライフスタイルも決定していく。その時、個人としての考え方も大切だが、グローバル化した現在の社会、これからの社会においては、社会的な影響とその背景を考えて購入することが重要となる。

そこで、5年生の家庭科で学ぶ内容「C 消費生活・環境」の学びでは、消費生活と環境に関する学習の関連を図りながら、自分の生活が身近な環境に与える影響に気づき、持続可能な社会の構築に向けて、主体的に生活を工夫できる消費者としての素地を学ぶので「エシカル消費」を基礎として学習を進めていくことは意味深い。

また、児童は、家庭科の授業で学習したことを実生活で活かしてこそ、学びを実感する。しかし、授業を通して、エシカル消費に向けて取り組む必要性を感じはしたが、実際に商品を買う機会がまだ少ないことや身近に「生産・流通過程を知る手掛かりになるラベル」が少ないことが課題として残る。そのため児童の中には、今、自分にできる募金や寄付をしたいという考えが広まっていった。授業後に取り組んだ「赤い羽根共同募金」では、児童会が積極的に声掛けをし、5年生は多くの児童が募金して例年にない額が集まったとの報告があった。消費者として未来に向けてできることを取り組む姿が見られた。

さらに、第3時の授業「みんなではじめるエシカル消費 ～目指そう行動できる消費者へ～」では、自分ができるエシカル消費から発展して、給食のストローのプラスチックごみの削減をなんとかできないかと取り上げた児童がいた。授業後、地域・社会に発信していきたいと考え、保護者の協力のもと「市長への手紙<sup>17)</sup>」を書くことにした。プラスチックストローから繰り返し使えるコップの使用や紙ストローなどに変えることで持続可能な社会の構築のため、すぐには改善できなくても、市政で前向きに考え取り組んでほしいと、改善案

も添えて、手紙を書き、投函した。

同じように、有機野菜の食材を学校給食へ取り入れられないかと考えた児童もいた。有機野菜の栽培の促進を行なうとともに、有機野菜は野菜本来の美味しさがあるので、残さず食べて食品ロスになるという提案である。また、学校から家庭への手紙のペーパーレス化についての提案を「市長への手紙」で送りたいと複数の児童が申し出た。児童も一人の消費者として、社会や地域に広めていくことの大切さを学び、実際に市政に働きかけを行った。

以上のことから、児童は自分の思いや取り組みを社会や地域に向けて発信し行動する消費者の素地ができ、この実感が実際の生活に活かすきっかけとなった。

課題として、本研究は家庭科の学習を通して取り組んでいるが、総合的な学習の時間や社会科などとの連携を図り、様々な視点からエシカル消費について考え、取り組むこともできる。また、各教科の目標や内容を加味した上で、家庭科の指導計画、指導方法を検討していくことも大切である。

さらに、実際の生活に活かすには、個々人の取り組みはもちろんのこと、社会全体のシステムの構築を図る必要性もある。

消費者教育は、幼児から高齢者までが対象であり、それぞれのライフステージに応じた取り組みと一生涯を見据えた消費者教育を段階的・系統的に行うことも重要である。学校教育の中では、児童生徒の指導はもちろんであるが、保護者を巻き

込んだ指導につなげることが、家庭への広がりとなり、さらに広がっていくことも考えられる。

これらのことが新たな課題として明らかになった。

#### 参考文献

- 渡瀬典子2008『『生活情報の活用』におけるマークに関する学習の課題』東北家庭科教育研究 No.7  
山科実緒2017「消費者として情報を読み取る力を育む教育実践」千葉大学教育学部研究紀要 第65巻

#### 参考資料

- 1) 2018年(平成30年)告示 高等学校学習指導要領解説(総則編) 文部科学省 p30
- 2) 2017年(平成29年)告示 小学校学習指導要領解説(家庭編) 文部科学省 p6
- 3) unicef世界子供白書2021統計
- 4) レインフォレスト・アライアンス認証マーク  
<https://www.rainforest-alliance.org>
- 5) 国際フェアトレード認証ラベル  
<https://www.fairtrade-jp.org>
- 6) 児童労働 Pqscis  
girl-gf9a8bff8b\_1920.jpg
- 7) 紙リサイクルマーク  
公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会
- 8) PETボトルリサイクルマーク  
PETボトルリサイクル推進協議会
- 9) プラスチックリサイクルマーク  
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- 10) エコマーク  
公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局
- 11) ノウフクJAS 農林水産省
- 12) FSC認証 Forest Stewardship Council  
森林管理協議会
- 13) 海のエコラベル MSC 認証  
[www.msc.org/jp](http://www.msc.org/jp)
- 14) PETボトルリサイクル推奨マーク  
PETボトルリサイクル推進協議会
- 15) 有機JASマーク 農林水産省
- 16) PSPO認証マーク PSPO事務局
- 17) 「市長への手紙」 千葉市市民局